

# 「この希望は失望に終わることがない」

## ローマ5：5

堀田修一 22・11・13

I 「この希望は失望に終わる（原語：恥をかかせる、赤面させる、期待が空しくなり挫折して恥をかかせる）ことはありません」：5。

1. 「この希望」とは。

①将来、神の時に、主が再臨され、悪魔と世の悪を正しくさばき、罪を告白し主を信じる者を神の栄光にあずからせ、救い（義認・聖化・栄化）を完成させ、私たちに罪のない栄光の体を与えて下さる確実な希望。「私たちは、信仰によって、今立っているこの恵み（主への信仰による義認＝すべての罪の完全な赦し、神との和解、平和）に導き入れられました（神に近づく特権）。そして神の栄光にあずかる望み（主の再臨による救いの完成）を喜んでいます（誇りとしています）」：2。

②現在も苦難や試練の中でも与えて下さる確実な希望。主を信じる私たちにも、様々な試練が生じ、問題は起こり、患難は押し寄せ、困難は襲いかかりますが、神は決して私たちを見放すことはなく、すべてを益とされます→「苦難が忍耐を生み出し、忍耐が練られた品性（主の姿、主の品性への成長、聖さと愛と思いやり）を生み出し（御聖霊による聖化）、練られた品性が希望（現在、苦難の中でも共におられる主の支えの恵みを体験する希望と将来、主が再臨され、戦争、争い、病のない真の平和、愛、罪のない栄光の体と平和な御国＝新天新地を待ち望む希望）を生み出すと、私たちは知っているからです」：3，4。

2. 偉大で真実な愛の神をいつも信頼するなら、苦難の中でも神から希望を頂き、決して失望はなく、期待を裏切られることはない。みことばは、他のみことばにより正しく解釈できるように聖霊なる神は六六巻の聖書を与えられた。本日のみことばの理解を助ける聖書箇所は、Ⅱテモテ1章。パウロはこの手紙を書いたとき獄中にいた。囚人となるのは人を非常に落ち込ませる。彼は老いを感じ、病を抱え、獄中にいた。誰であっても鬱状態にさせられて当然の状況だった。しかし、パウロは失望せずこう言う。「福音のために、私は宣教者、使徒、また教師として（神に）任命されました。そのために、私はこのような苦しみにあっています。しかし、それを恥とは思っていません。なぜなら、私は自分が信じてきた（信頼してきた）方をよく知っており、また、その方は私がお任せしたもの（パウロ自身、魂）を、かの日（主の再臨の日）まで守ることがおできになると確信しているからです」1：11－12。パウロは試練や苦難の只中にあるが、恥を見させられたとは思っていない。自分の立場も、自分の使命をも恥じておらず、失望してはいない。神は、主の日まで神にお任せした私自身、魂を守ることがおできになると確信していると言っている。パウロは神の支配、ご計画の中で獄中にいた。環境を支配しておられる主について行く限り、私たちは、環境に支配されない。主がすべてを支配し益とし守られる。偶然の出来事はない。ローマ8：37でこう励まされている。「これらすべて（試練、苦難）においても、私たちを愛してくださった方によって、私たちは圧倒的な勝利者です」。「圧倒的な勝利者」とは、試練を単に辛抱し、単に耐えるだけではなく、愛して下さる主に頼

り、それすら乗り越えて進み、そうしたすべてを神の摂理、ご支配、ご計画にある目的と価値のあるものと考え捉え喜び、希望を持つ。この2千年の間、主に救われ愛された聖徒、殉教者たち（使徒たち、パウロも主を喜び賛美しつつ殉教し天国に行った）の実際の姿に、主による「圧倒的な勝利」が証しされている。なぜこの人々は、神を賛美しつつ殉教できたか。それは、主の動かない救いの希望を確信していたからである。

Ⅱ「なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです」：5。

1. 「神の愛が」。神の私たちへの愛は、人の愛とは違う。夫婦の愛も親子の愛も、神の愛に比べれば不十分。神の愛は、私たち被造物を造られた燃えるような温かい愛。主の十字架で現された深い愛。

2. 「注がれている」。私たちの心に神の愛が「注がれている」とは、「あふれるばかりに与えられている」こと。神の愛が惜しみなく、豊かに注がれていっぱいにあふれている。この箇所は「神の愛が満ちあふれている」と訳すことができる。

3. 「心の中に」。神の愛が私たちの心に注がれている。心とは、私たちの人格の中心部。私たちの思考と行為の中心、人間存在の最も深い中心部。私たちの「心」に神の愛が溢れるばかりに流れ込んでいて、私たちの全存在が神の愛に浸りきっている。苦難の中にある私たちを神は、心から愛されており、私たちは圧倒的な神の愛に満たされ、捕えられています。「(神である) キリストの愛が私たちを取り囲んでいるからです」Ⅱコリント5：14。「取り囲んでいる」の原語：迫っている、しっかり保持する、捕らえておく。2017年版の訳「キリストの愛が私たちを捕らえている」。本日の応答の賛美「キリストの愛 我に迫れり」。素晴らしい讃美です。私たちは、現在、苦難、悩み、難題が迫り、取り囲まれ、捕らえられているかもしれない。しかし、この時、もう一度、このみことばとすべてを支配しておられる神を見上げたい。神は、私たちに迫る苦難以上の愛で私たちを取り囲み、迫り、捕らえ、守って下さる。「どんな被造物（苦難、困難他）も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません」ローマ8：39。

4. 「聖霊によって」。どのようにして神の愛が私たちの心に注がれるのでしょうか。それは「私たちに与えられた聖霊によって」です。神の愛が心に迫り溢れ、私たちが神の愛に捕らえられるのは、聖霊のみわざ。自分で神の愛をもっと感じようとしても無理。これは人間の努力によるのではなく、聖霊の働き。三位一体の第3位格の聖霊なる神こそ神の愛を私たちの心に注ぎ満たし、この愛の確信を植え付けるお方。どうすれば聖霊による愛の注ぎを受けることができるのか。その答えは、神に心から祈り求めることです。こう約束されています。「あなたがたは悪い者（罪のない完全に聖い者ではない）ではあっても、自分の子どもたちには良いものを与えることを知っています（証し）。それならなおのこと、天の父はご自分に聖霊を与えてくださいます」ルカ11：13。神の愛の注ぎかけは、聖霊による神の愛の体験。聖霊が下さる私たちの最高の確信。ですから、神に心から祈り求めましょう。日々。※証し。聖霊の働きは、みことばと離れたところにはない。聖霊はみことばと共に働かれる。聖霊に満たされるとき、みことばを喜ぶ者、みことばを深く理解する者にされる。聖霊が親しく臨み、私たちの心を満た

し、あらゆる困難、苦難の中にありながら、神にひれ伏し、「感謝」としか言うことができない、素晴らしい喜びを与えてくださる。「御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制」ガラテヤ5：22，23。

### Ⅲ 神の恵み、聖霊の注ぎによる神の愛への応答

1. 困難、苦難、試練の中、それらに心が捕われ支配されるのではなく、迫って下さる神の愛に支配され、捕らえられ満たされるように祈りましょう。苦難の中で失望、絶望するのではなく、すべてを支配し、すべてを益とされる神（「苦難が忍耐を生み出し、忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出す」5：3，4）を見上げ、どんなときも主にある希望を持てるように祈りましょう。
2. 苦難の中で神に愛され神の慰めを受け、自分の近くに置かれた人で、苦難に遭い、失望している人がいれば、祈りつつ、寄り添い、支え合い、神の愛と慰めを執り成し祈ることができますように。「神は、どのような苦しみのおきにも、私たちに慰めてくださいます。それで私たちも、自分たちが神から受ける慰めによって、あらゆる苦しみの中にいる人たちを慰めることができます」Ⅱコリント1：4